



関西支部報

http://jac.or.jp/kns/

関西支部設立90周年事業(記念出版)

水谷 透

「関西登山史」

これまで『関西登山史』なる本がなかったのが不思議なほどです。

2018年関西支部に登山文化研究会が発足し、「山岳書」、「山岳画」、「山の音楽」、「山の民俗・宗教」、「関西岳人伝」の5つの分野で展開されています。研究会や報告書において種々の発表があり、関西地域に関する報告も数々あります。

5つの分野の一つ「関西岳人伝」では、関西で活躍した岳人について研究するにあたり、まずは関西の登山の歴史から勉強することとし、関西各山域の歴史や関西岳人が活躍した山岳、関西に纏わる山岳団体など数々の発表がありました。そこで「関西岳人伝」のメンバーが中心となって、研究成果を纏める形で『関西登山史』を出版することにいたします。

「関西岳人伝」そのものは道半ばにも達していませんが、足りない部分を補足することによって「関西登山史」の

一端でも、いや外観だけでも眺められることになればと思います。

「関西支部県境縦走」

日本山岳会の創立100周年記念事業として「中央分水嶺踏査登山」が実施されました。これは太平洋と日本海を分ける分水嶺ですが、太平洋と瀬戸内海を分ける分水嶺も存在することから、関西支部独自の取り組みとして、四国分水嶺および近畿分水嶺の踏査を実施しました。

「近畿分水嶺踏査」は、関西支部設立70周年記念事業として実施され、2009年4月から2012年12月にかけて踏査されました。この記録は、関西支部設立80周年の折に記念出版として一冊の本に纏められました。

引き続き関西支部では、関西支部設立80周年記念事業として「関西支部県境縦走」を2013年1月から2018年5月にかけて実施しました。この記録を、関西支部設立90周年の折に一冊の本に纏め出版することにいたします。

令和5年 関西支部総会のご案内

日時：2023年4月19日(水) 18時30分～
 場所：浪速ビル東館地下1階会議室
 大阪市北区万歳町4-12 ☎06-6312-6948
 議 事：令和4年度 活動報告、会計報告
 令和5・6年度役員選出
 令和5年度 活動計画、予算他
 懇親会：大阪梅田「大東洋」 19時30分～
 会 費：5,000円 ☎06-6312-7525
 ※同封のハガキに63円
 切手を貼り4月5日迄
 にお申込みください。
 連絡先：豊田哲也
 ☎090-6433-3108



編集後記	18
ご注意	17
個人山行	17
支部会費の納入について	17
スケッチ同好会	17
自然保護行事業内(4月～6月)	16
山行委員会行事案内(4月～6月)	14
山行ひろば	14
会務報告	14
東おたふく山スキ草原復元活動	14
本山寺山森林づくりの会活動報告	13
支部山行報告	5
黒田記代さん追悼	2
関西支部新年会報告	2
著者と語る会報告	2
回想のJAC指導者たち	2
関西支部設立90周年記念事業	1

目次

回想のJAC指導者たち

金井健二

懐かしくも古い写真が出てきた。昭和24年(1949年)の夏山、槍ヶ岳頂上での記念写真である。男女高校生20名ばかりの集合写真であるが、特筆すべきは、当時のJACの錚々たるお歴々の顔が写っていたのである。新村正一、川森左智子、網倉志朗、吉田元の4氏である。この写真は岡山県の玉野女子高校山岳部の一行の夏山登山のパーティの記念写真で、キャプテンは原貞代さんだったと記憶する。女子高校山岳部のお嬢さん方の山岳部の穂高涸沢での夏山合宿なので、その指導をJACに委託され、JAC本部から派遣されたのが上記の4氏であった。敗戦の混乱がようやく収まりをみせていた時代だった。

関西には戦前から関西学生山岳連盟という組織があり、これにその前年に学制改革で発足したばかりの新制高校を加盟させることになり、兵庫県下の神戸高校や伊丹高校、尼崎工業高校など10校前後が涸沢で合同合宿をやった。解散後、居残ったのが、灘高校、芦屋高校の6名だった。リーダーの私は設営されたばかりの玉野女子高校山岳部の大テントに、ロックガーデンなどで岩登りの指導を受けていた新村さんがおられると知り挨拶に行った。新村さんの提案で、この6名がアルバイトとしてこの一行のアシスタントに雇われたという経緯があった(関西支部50年史参照)。

この山行を通じて新村正一さんには格別の指導を頂いた。リーダーの心得、衿持、更には小槍登攀の実技指導など多岐にわたる。『風雪のビバーク』で知られる松濤明氏の遺書の発見の経緯などもお聞きした。

時代背景としては、昭和22年春に始まった石坂洋次郎の戦後初の新聞連載小説『青い山脈』が、2年の曲折を経てようやく映画化され(監督:今井正、主演:池部良、原節子、小暮美千代)、今も歌い継がれている主題歌の「青い山脈」が大ヒット中であった。涸沢の大テントで我々男女高校生どうしがこの歌を合唱したとき、網倉さんが「今の若者はいいな、私など川森さんを誘い出すのに大苦勞したもんだよ」と笑っていたのを懐かしく思い起す。

「青い山脈」は藤木祭の芦屋コーラスの定番にもなっていた。

戦後50年を経て、秀才だった我が高校の同級生は当時を回想して次のように述べていた。

昭和20年春、日本はすでに敗色の気配が濃く、阪神重工業地帯は米軍の激しい空爆にさらされていた。空襲警報のサイレンが鳴るたびに、生徒も先生も校舎の廊下でうつ伏せになり、10本の指先で目・耳・鼻を押さえた。爆風で目が飛び出し、鼓膜が破れ、窒息するのを防ぐためだいうのだ。何とも原始的な方法だった。軍需工場の後片付けに動員された廃虚の炎天下で、少年兵が日本は負けたんやと言った。

8月15日の敗戦を境に私たち軍国少年は、突如、民主主義少年になった。与えられた自由は何ものにもかえがたい貴重なものを感じられた。他校では縮小された英語授業に迎合せず、毎日英語授業を継続して、講道館の嘉納治五郎氏の自由と自治の伝統を守ってきた母校ではあったが、下校時に甲南女学校の塀の外から校庭に小石を投げ込んで女生徒がキャーと叫ぶのを喜んだりといった些細なことも、戦時中には考えられないことだった。と。

因みに、伊藤洋平さんから中部日本新聞に移管された岳人のこの号には、後に「何でも見てやろう」や「べ平連」で名を成した小田実氏の名文が掲載されている。



最後列左端が筆者

著者と語る会報告

豊田哲也

「世界を沢登りで巡る」講師 茂木完治

11月19日 大阪セルロイド会館

海外の沢に先駆的な足跡を残された茂木氏。きっかけ

は大阪わらじの会入会後、大峰・大台の沢が既に殆ど遡行されていたことから。未知の沢を求め台湾へ。中華民国山岳協会に話したところあっさり入渓許可、日台合同

の沙里仙溪の沢登りが実現する。1回目は台風もあり3日で敗退したが、翌年出合から山頂まで標高差2700mの完全廻行を成し遂げ玉山登頂に成功した。この間台湾岳人との交流を深め、台湾に廻溪(沢登り)文化を根付かせた。雑誌「ワンデルング」掲載の氏の漫画も紹介され、ほのぼのとした画風は人柄がにじみ出て氏の語り口と相まってユーモア溢れるものだった。その後雪山七家彎溪、南湖大山太魯閣溪谷など台湾五岳の廻行に成功。海外で幅広く活動するため海外廻行同人を設立し、韓国の雪岳山の沢に入る。韓国は美しい花崗岩の滑滝の沢が多い。川に落ちた少女を助けるハプニングもあった。パプアニューギニアではジャングルの中を歩いてウィルヘルム山コン川の沢登り。ニュージーランドではクック山近くのアバーランチ・クリーク。アーサパスの谷では一度巻いたら二度と谷へ戻れない大滝、テントやザックに穴を開けるケアという鳥等面白い話が次々と。南米アマゾン川

源流トレペレツ川沢登りでは奥地で1人で暮らす日本人移民を訪ねた話など。スペインのムラセン山の沢登り、グアム島、中国四川省、ヒマラヤランタン渓谷トリスリ谷と世界各地の沢へ足を延ばしていった。和やかな雰囲気の中、好奇心溢れるスケールの大きな内容に終始圧倒され魅了された人も多かった。

【参加者】中村三佳、小黒節郎、永井和、深澤優子、野村康、岩崎しのぶ、金井良碩、薦田佳一、岡田輝子、高木知子、新本政子、久保和恵、坂本明子、岡谷雄一郎、山崎 詮、今宿瑛三郎、上森文子、水谷透、豊田哲也、澤田幸子、清瀬祐司、会員外10名 計31名



2023年 関西支部新年会報告

岡谷雄一郎

令和5年1月28日(土)大阪梅田「大東洋」にて日本山岳会関西支部の新年会が3年ぶりに開催され38名の方が参加されました。

初めに茂木支部長が挨拶で「3年ぶりの無事開催への喜びのメッセージと今後の関西支部発展への抱負」を述べられました。

次に昨年12月他界された黒田記代様のご冥福をお祈りし、全員で黙祷を行いました。

続いて重廣恒夫元支部長の音頭で乾杯となります。

美味しい料理とお酒が続々と運ばれる中、一気に会場の雰囲気も変わり楽しく盛り上がります。

さらに最近新会員となられた方をトップバッターにたくさんの方々から自己紹介や今年の抱負などを語っていただくお時間となりました。

受付で配布された出席者の方々のプロフィールを読み合わせながら、みなさま興味津々に聞き入っておられた模様で、各テーブルの端々では次々に会話に花が咲いていきます。

お酒を片手に各テーブルを超えて、みなさま楽しく談笑され、コロナ禍で閉ざされてきた憂鬱な雰囲気を一気に吹き飛ばす楽しい晴れやかな雰囲気へと相成りました。

そのうち楽しい時間もあっという間に予定の時間が来てしまい、金井良碩前支部長の音頭による一本締めで閉会となりました。

前々から登山教室に参加したいと思っていた矢先の昨年6月、憧れだったキリマンジャロ登山の募集記事を会報で見て即入会を決意。まだ地図読みも覚束無いヒヨッコの私にとって今回の新年会初参加は、関西支部の大先輩から深い数々のお言葉を直接頂ける機会となり最高に楽しい貴重な時間となりました。

関西支部の若返り発展に、少しでもお役に立てるよう一步一步進んで参りたいと思います。素敵な機会を本当にありがとうございました。

【参加者】茂木完治、水谷透、辻和雄、金井健二、中島隆、中村久住、金井良碩、重廣恒夫、斧田一陽、中川和道、城隆嗣、大津陸郎、黒田守彦、嶋岡章、伊原哲士、野村珠生、小黒節郎、山田健、橋本圭之輔、藤井裕人、薦田佳一、永井和、岡田輝子、中村三佳、今井拓雄、中久保忠伸、坂口和子、深澤優子、野村康、高田康弘、青木昭、池尻英明、高木知子、小林又七、岡谷雄一郎、荻部聖子、宇都宮浩、渡辺正美 計38名



乾杯の音頭をとる重廣元支部長

黒田記代さん追悼

あのはじけるような笑顔が忘れられない

直前まで山行委員長の仕事や山行に頑張っておられた黒田記代さんの突然の訃報に驚いています。訃報を聞く半年前まで一緒に山を歩いていたのに。

黒田さんとの出会いは2009年関西支部入会の時でした。会員で府岳連指導部長だった山本一夫氏に紹介され一緒に会いました。30代後半から山を始め、100名山から岩登りまで取り組み、山の経験も多く大阪府岳連の指導者資格もとり、山に対する情熱を持った人だと感じ、関西支部にとって貴重な人になるだろうと思いました。指導者の資格を持っていると自慢するのではなく使う必要があれば役立てたいと言われていたことを思い出します。

入会後は中央分水嶺踏査に続く関西支部独自の取り組みである近畿分水嶺踏査から県境縦走、テント泊主体の4000山グランプリや現在取り組んでいる古道調査、関西のアルプス踏査など、支部のほとんどの山行に参加し関西支部にとってなくてはならない人になりました。

テント山行の時はいつも山では食べられない料理を用意してテント生活を楽しませてくれていたことを思い出します。同行者は「今日はどうなものが出てくるのかな。」と私のように期待していたのではないのでしょうか。汗をたらたら流しているときにリュックから差し出されたグレープフルーツの美味しさは格別でした。

山での記念撮影の写真にはいつもはちきれんばかりの笑顔で写っています。山が大好きで心から楽しんでいたことが分かります。

2013年から始まった瀬戸内海から日本海へ、日本海から太平洋へという約700kmにわたる関西支部エリアの県境縦走は山行委員として担当し、兵庫・岡山の県境真尾浜から陸上峠まで、兵庫・京都の県境から新宮までの報告書作成はすべて黒田さんが担当しました。報告書作成をし始めた頃はみんなで分担していたのですが、同じ人が担当する方がいいということになったので進んで取り組んでくれました。奈良・三重県境縦走のテント泊も含めると2018年5月まで5年5か月58回の山行でした。太平洋の新宮まで到達した記念に関西支部設立80周年記念のTシャツを着て、北山川筏下りも楽しみました。歩いた道を振り返りながら、かかる水しぶきにキャーキャー言いあっていた時の笑顔が忘れられません。

極めつけは80周年記念行事であった未踏峰ナンガマリⅡ峰登山の遠征隊員として挑まれ、9名の仲間と共に登頂された輝かしい業績を残されたことです。遠征中は担

当外の食糧管理にも積極的に取り組まれて、行動食のカルパスが苦手な人から魚肉ソーセージとの交換をよく頼まれていたとか。30代後半から始めた山の集大成としての海外遠征で、これからお母さまの世話で長く家を空けられなくなるので後進育成に力を注ぎたいと言われてもいました。ナンガマリⅡ峰初登頂報告書の写真も満面の笑顔で掲載されています。

また、2011年から始めた支部の登山教室では重廣氏の片腕として指導員の資格を生かす場ができ積極的に活動されていました。

現在日本山岳会創立120周年・関西支部設立90周年記念行事として取り組んでいる古道調査葛城28宿歩きや関西のアルプス踏査も率先して歩かれており、ヒマラヤ登山塾へも真摯に参加されていました。

入会早々から山行委員としてよく働き、2017年度からは山行委員長として山行委員や山行に関する行事のまとめ役、山行計画の立案や調整、支部活性化に向けて全力で取り組まれていました。現在は山行回数が増え日程の調整も必要となり、楽しめる趣向を凝らした山行も増えています。

充実してきた関西支部委員組織の山行委員長として病魔と闘いながら最後まで頑張り続けた精神力の強さに脱帽です。責任感の強い人でした。

高齢のお母さまのお世話も手を抜くことなく大阪府岳連の仕事もされていました。

お母さまを残していく心苦しさを始め、念願の日本縦断の完遂、テント山行の再開も含めてまだまだやり残したことがあり心残りの事も多々あったでしょうに。

最後までしんどさをおくびにも出さず弱音を吐くこともなく頑張り続けていた姿が浮かび、心が痛みます。頭が下がります。

いつも前向きで取り組む姿、骨身を惜しまず働く姿と共に本当に山を楽しんでいるはじけるような笑顔が忘れられません。もっともっと笑顔を見たかったのに。

力いっぱい最後まで走り抜けた黒ちゃん
もうゆっくり休んでくださいね。



支部山行報告

支部山行22-44 第18回山岳古道調査
「葛城修験の道」金剛山第21経塚・大田和地蔵第22経塚

岡野武司

10月15日(土)快晴

今回歩いた関屋道は歩く人が少なく荒廃しているとの事で登りに利用した。そのため逆順で廻る事になった。

近鉄御所駅からタクシーで葛城水分神社へ向かう。林道から登山口に入ると、荒れているが踏み跡、テープ、標識とあり、迷うことなく第22経塚大田和地蔵に到着した。お地蔵様を確認後、薄い踏み跡をたどりながら倒木を越え急坂を登りきると、広い平地の朝原寺跡に出た。手分けして痕跡を探すと少し高くなった台地の上に何かの礎石、阿闍梨墓、文字の判読できない卒塔婆、平成・令和の年号が入った奉納札があった。かつては金剛山七坊の1つで、大きな寺であった事が想像できる。お地蔵様や石塔の一部も確認できた。

寺跡からダイトレへ向かう。古道は朝原寺道と名前が変わる。荒廃は進み、歩きにくい箇所もあったが町石という巡礼古道の痕跡も見つけられた。ダイトレ合流後に昼食を取り第21経塚金剛山湧出岳へ向かう。経塚と三角点を確認後、地図にある「表忠塔」を探すが分からず裏参道から葛木神社、夫婦杉、転法輪寺と参拝して山頂へ到着した(表忠塔は経塚前にあった立入禁止の展望台だと後に判明した)。休憩後、階段だらけの千早本道を下りバス停へ向かった。



大田和地蔵第22経塚にて 写真提供：永井 和

【コースタイム】

葛城水分神社9:38～大田和地蔵第22経塚10:23～朝原寺跡11:35～ダイトレ合流12:24～湧出岳第21経塚14:01～金

剛登山口バス停15:47

【参加者】

永井 和、野村 康、久保和恵、山内幸子、岩崎しのぶ、薦田佳一、中川委紀子、山西和美、辻和雄、上森文子

計10名

支部山行22-45 第13回関西のアルプス踏査
神戸アルプス「妙号岩から鍋蓋山・再度山・堂徳山・市章山・碓山・諏訪山」

山内幸子

10月16日(日)薄曇

今回の関西アルプス踏査の「神戸アルプス」という名称は古い記録に残っているが宅地開発などで様相が変わり今は菊水山から城ヶ越あたりだろうと言われている。

30年以上前に菊水ルンゼから何度も眺めていた妙号岩の後ろの山にも登るといって楽しみに参加させてもらった。鈴蘭台駅から南下してガードレールを乗り越えて妙号岩に取りつく。南無阿弥陀仏と彫られている妙号岩直下で岩を見上げ、そのまま雑木の中の岩がゴロゴロした道を登っていくと岩場になる。久しぶりの岩場で緊張する。脚力の衰えた足を一步一步踏ん張りあげながら登っていく。岩場が終わると大展望が待ち受ける妙号岩南峰で景色を楽しむ。初めてピークを踏んで感動ものだった。下りも岩場を慎重に下っていき道路におり立つと「今日のコア部が終わったよだからこれで終わっても大満足だね。」と言いながら緊張感を沈めて今日の目的である踏査の菊水山に取付く。

ここからが本番で長い歩きが始まる。菊水山へはルンゼの南側の尾根を登っていく。菊水山での休憩後全縦の道でもある城ヶ越の痩せ尾根、ガレ道を下りする。この辺りがアルプスと呼ばれたのだろう。それから走る自動車を見おろしながら天王吊橋を渡り、鍋蓋山に登り返す。昼食後しっとりとした鍋蓋北尾根を歩き再度公園に出る。11月中頃には見事な紅葉に取り囲まれる修法ヶ原池から再度山へ登り大龍寺を経由して善助茶屋跡から二本松に出る。堂徳山・市章山・碓山・諏訪山と多くのピークを越え諏訪山公園に出で解散し、元町と花隈に向かう組に分かれて帰路についた。

ビーナスブリッジは工事中で通れなかったのは残念だったが、緊張感あふれる岩場歩きにアルプス踏査、展望

の楽しめるたくさんの頂上を踏みながら長いコースを歩いた充実した山行だった。

【コースタイム】

鈴蘭台駅8:45～妙号岩南峰10:02～菊水山11:32～鍋蓋山13:04～再度山13:53～堂徳山14:42～市章山15:02～碓山(錨山)15:11～諏訪山15:40～諏訪神社15:58



天王吊橋を渡り鍋蓋山へ向かう 写真提供：野村 康

【参加者】

小黑節郎、上森文子、久保和恵、野村康、深澤優子、山内幸子 計6名

支部山行22-46 ゆるやか山行 歴史と文化を訪ねて「西山三山(西山古道)」

福山茂光

10月20日(木)晴

長岡天神駅からバスに乗り旭ヶ丘ホーム前で降車する。日増しに深まりゆく秋半ば、穏やかな朝日を背に受けて、光明寺への広い坂道を上る。本堂前境内の脇に立つ銅像「法然上人」が私たちを迎えてくれた。この寺は、上人が念仏を説いた念仏発祥の地で、熊谷直実が堂宇を建てたという。ご挨拶と体操を終えてキャンプ場・柳谷観音をめざす。今日の道程は11km余の長い距離と下山時間を気にしての歩きとなった。西山古道は谷に沿いながら次第に急な坂道が続く。皆さんは健脚ぶりを発揮されながら登っていかれる。

夏のにぎわいが残るキャンプ場でしばしの休憩後、立石橋を通り、尾根伝いの縦走路、樹々からの木漏れ陽が葉を紅く染め上げる。全員そろっての昼食タイム。手弁当に舌鼓を打つ。

午後はアップダウンの急坂路を越え、やがて柳谷観音へ着く。壮麗な山門を見上げ、日射で汗ばむ身体を休めながら飲む冷えたお茶の味は格別である。

身支度の後、次の善峰寺をめざし急坂を登り縦走するうち、突然視界が開けた。遠くに京都市街がキラキラと

輝き箱庭のようだ。爽快な気分のひと時だ。白糸の滝の前で野村さんのカメラに収まった。

つるべ落としの夕暮れ、次第に夕闇が迫ってくる。奥深い樹林帯を縫って下山を急ぐ。やっと善峰寺バス停に到着。充実感と感謝の気持ちに満たされる。天候にも恵まれ豊かな自然と歴史にふれられた楽しい山行だった。

【コースタイム】

旭が丘ホーム前BS8:53～光明寺9:17～西山キャンプ場10:40～柳谷観音13:28～大沢峠14:48～善峰寺BS15:42



深山を呈する西山古道 写真提供：野村 康

【参加者】

久保和恵、山内幸子、上田典子、内田嘉弘、内田昌子、黒田守彦、薦田佳一、坂口和子、助川 征、田中昌二郎、野村 康、松村文子、茂木完治、山下政一、福山茂光、八田吉子、池尻英明、金川清弘、黒岩敦子、小林三喜男、高木知子、田頭夏子、淡野隆久、中田 栄、横山規江

計25名

支部山行22-47 クライミング初級「六甲・蓬萊峡」

10月27日(木)

【参加者】

江村俊也、深澤優子、上森文子、吉村恵利 計4名

支部山行22-48 第19回山岳古道調査「葛城修験の道」櫛羅第23経塚・吉祥草寺

野村 康

10月29日(土)晴

近鉄御所駅に集合し、コミュニティバスに乗る。運賃は100円で細い道をくねくね進み、名柄で下車。名柄の町並を行き、願いを一言だけ聞いて下さる一言主神社の総本社 葛城一言主神社でお参りをする。一言主神については『古事記』の下巻に雄略天皇との、『日本霊異記』第

28縁に役行者との逸話にある。御神木の乳イチョウがあり、子供を授かりお乳がよく出ると伝えられているそうだ。次に行基が創始したとされる九品寺をお参りする。北朝との戦に奉納したとされる1,800体もの身代わり石仏が見事であった。

櫛羅に入り、六地藏が彫られた巨石を経て、俱尸羅薬王菩薩本事品 第二十三経塚とされる五輪塔(空風火水地を意味し、宇宙が成り立つ5大要素または人間の体を表している塔)を訪れた後、不動寺に向かう。修験道の開祖とされる役行者が葛城山で修行を始められた時に、第一番修行の坊として建てられたとのこと。近くの役行者が修行したとされる櫛羅の滝を訪れ、不動明王の功德により脳病に効くと言われる水しぶきを浴びた。江戸時代に街道町として栄え、町屋が軒を連ねる御所の町を行き、役行者生誕地とされる吉祥草寺を訪れた。住職のご厚意で、役行者32歳の時の自作と言われている像と母の白専女像を拝ませて頂いた。



櫛羅第23経塚にて 写真提供：永井 和

【コースタイム】

近鉄御所駅10:04～名柄バス停10:51～葛城一言主神社 11:26～九品寺12:33～第23経塚13:07～不動寺14:21～六地藏石仏14:42～吉祥草寺16:15～御所駅16:49

【参加者】

永井 和、薦田佳一、松村文子、新本政子、山西和美、岩崎しのぶ、中川委紀子、深澤優子、野村 康 計9名

**支部山行22-49 沢登り例会
台高山系「三ノ公川明神谷～馬の鞍谷」**

中久保忠伸

11月5日(土)晴

三ノ公川明神谷は、途中にカクシ平谷とイリハシ谷を分けて馬の鞍谷となり台高山系の縦走路でもある馬の鞍峰を源流とする谷である。途中にかかる明神滝は誰もが

知る明神谷の代表的な滝である。右岸の登山道から降りて滝を拝見、登山道にもどり明神滝の上から入渓する。次の二の滝は左岸から巻き上がり、カクシ平谷を見送り先へ進み、イリハシ谷出合いにかかる美しい二条の滝は左から登る。今回はいつも一緒の豊田さんと二人なので、いくつか出てくる滝もノーザイルでこなし進めた。13時には稜線に出る。馬ノ鞍峰からはどっしりとした白鬚岳の雄姿が見える。山頂で昼食をすませ、カクシ平経由で下山する。

【コースタイム】

駐車場8:24～明神滝9:26～二ノ滝10:36～稜線12:50～馬ノ鞍峰13:20～P1073 13:50～カクシ平14:36～駐車場15:30



明神滝 写真：中久保忠伸

【参加者】

中久保忠伸、豊田哲也

計2名

**支部山行22-50 月例会(11月)
「丹生山系を巡る」**

岡野武司

11月6日(日)晴

谷川駅からバスに乗車、終点の衝原バス停で下車する。ここから登山口までの道は、アスファルトの道を歩き15分ほどでコウモリ谷の出合に到着。準備体操を行い当初の目的地、シビレ山に向けて歩く。コウモリ谷からシビレ山への道は、少し下り沢沿いの道を歩く。道には、ガレ場があり比較的大きめの岩がある。短めのナメ場などがあり、三点支持でコウモリ谷を無事に通過し、尾根道と合流する。ここからシビレ山へは、今までの登山道と違って少し景色が開けた尾根道を歩く。軽い登りはあつ

たが、ほぼ平坦な道を進みシビレ山に到着。シビレ山山頂は樹木に囲まれて景色が良くないため、次の目的地の朝日山に向け歩く。

朝日山の山頂は少し藪があるものの、シビレ山と比べて見通しが良い。到着がお昼少し回った事もありここで昼食とする。ここは、シビレ山山頂より休憩出来る場所が少し広めという感じであった。食事を済ませ出発。なだらかな道を進み、丹生山に到着。丹生山にはお寺があったが、今では廃寺になった様子。丹生神社を見学した後は、義経道を衝原バス停に向けて下った。

【コースタイム】

衝原バス停9:10～コウモリ谷出合9:40～コウモリ谷下山分岐点11:00～シビレ山11:35～朝日山12:40～丹生山13:20～衝原バス停14:30



コウモリ谷クライミングエリアにて 写真提供：前田正彰

【参加者】

野村 康、豊田哲也、前田正彰、山内幸子、岡野武司、深澤優子、上森文子、坂本明子、池尻英明 計9名

支部山行22-51 第14回 関西のアルプス路査
「三草アルプス」

中村三佳

11月12日(土) 晴

電車遅延でスタート時間が一時間遅くなった。早くなった日没に焦る気持ちを落ち着かせながら準備体操をして登山口へ向かった。最初の登り出しが本日最大の難所。藪を漕ぎながら道なき道を進む。緊張が強いられたのは15分ほどで岩稜尾根に取り付いた。標高は高くないものの展望が素晴らしい。先行する人影が見えたがそれ以外は我々だけである。P240を過ぎるとキレットと呼ばれるロープ場が現れた。高低差3メートルの急斜面を順調に進む。岩稜が続くと低木草の藪道になり、また岩稜となる。アルプスと言うだけあって登り下りを繰り返しながら標高を上げて行く。11月中旬であるのにとっても暑く、

この気候に勘違いしたのかツツジが咲いていた。

昼食後、急坂を下る。ザレ道で滑りそうになり、枝を掴むとサルトリイバラの被害にあった。数曾寺峠まで下るとそこからは本日最大の体力勝負、大坂山に向かって急坂を登る。「ゆっくり行きましょう」とのリーダーからの掛け声に皆、大きく頷きながら登る。一時間ほどで山頂に到着した。周りを見渡すと、同じような高さの山が幾重にも重なった山並みや縦走して来た道、ゴルフ場が見えた。

下山道はかなりの急坂で、途中、鎖場が2ヶ所あった。数曾寺谷合流点からは、色付いた木々に囲まれ、汗をたっぷりかきながらも秋真っ只中であると感じた。

素晴らしい天気の中、低山ながらしっかりとしたアルプス縦走ができ、大満足だった。



大坂山からの登路 写真提供：小黒節郎

【コースタイム】

駐車場10:15～P240 11:22～数曾寺峠13:20～大坂山14:20～数曾寺谷合流点15:20～駐車場16:03

【参加者】

小黒節郎、久保和恵、山内幸子、永井和、深澤優子、中村三佳 計6名

支部山行22-52 ゆるやか山行 歴史と文化を訪ねて
「小倉山 296m」

横山規江

11月17日(木) 晴

嵐山駅に集合が、出足がそろわず電話連絡に追われたリーダーであったが、紅葉の嵐山公園で準備体操を終え、全員揃って小倉山めざして出発。いきなり急な階段で、さらに登っていくと遥か下方に保津川下りの船が見えた。しばらくして頂上に到着、ここで記念写真。百人一首を大木の幹に見つけた。「小倉山峰のみみじ葉心あらばいまひとたびのみゆき待たなむ 貞信公」私たちは良い時期

に来られたなあとつくづく感じた。

元の道に戻り落ち葉の積もった溝を椅子代わり皆並んで昼食。この後、急な狭い岩場の下り坂では「落ちたら保津川下りや」車道に出たら「あー怖かった」と誰かの声！つかの間ではあったがスリルを味わった。

通行止の為ショートカットで清滝不動院は行かず、おかげでゆったりと嵯峨野散策を味わえた。鳥居本ではみたらし団子のいい匂い！念仏寺の標識を横目にして小倉山二尊院ではオレンジ色の紅葉が冴えわたっていた。落柿舎、竹林を通り抜け大通りへ。コロナ騒動以来の観光客であふれ、レースの着物の女性も、人力車もフル稼働？ JR嵐山、嵐電、阪急嵐山駅に別れ帰路に。



小倉山山頂にて 写真提供：前田正彰

【コースタイム】

阪急嵐山駅9:25～小倉山登山口10:23～小倉山11:20～六丁峠12:37～小倉山二尊院13:25～阪急嵐山駅14:24

【参加者】

久保和恵、野村康、新本政子、上田典子、内田嘉弘、内田昌子、浦上芳啓、岡田輝子、黒田守彦、坂口和子、助川 征、野口恒雄、前田正彰、松村文子、山下政一、青木 昭、金川清弘、黒岩敦子、小林三喜男、高木知子、田頭夏子、淡野隆久、中田 栄、播戸日出夫、横山規江
計25名

支部山行22-54 クライミング初級
「六甲・蓬萊峡」

11月24日(木)

【参加者】

江村俊也、深澤優子、上森文子、吉村恵利 計4名

支部山行22-55 六甲山を歩く
「信仰の道を歩く」

山本義博

11月26日(土)曇り後晴

神鉄六甲駅を定刻に出発。少し歩いた所で恒例の久保さんのリードによる準備体操で体をほぐした。

しばらく行くと広い道路に出たが、なぜか道路下の隧道が締め切られており車の多い道路を横断する破目になった。そこから今日の最初のピークである古寺山の登りでかなり勾配もあったが、約1時間で到着した。山頂には清盛の涼み石があり、少し離れた展望石からの展望も一見に値すると思った。

古寺山からシュラインロードに進んだが道標の取り付け状態が悪かったこともありコースアウトして有料道路の金網に出てしまった。急なところを登り返すことになる。藪漕ぎになるが早く復帰できる水平なトラバースを選んだ。その結果、それほどの藪漕ぎではなく予定のコースに戻ることができ、シュラインロード入り口になる鳥居についた。



古寺山にて 写真提供：前田正彰

ここからは道幅も広く道標もしっかりしており、天気も良くなり、道端にある石仏を見ながら快調に進む事が出来た。シュラインロード出口で明日の山岳古道調査に参加される久保さんと横山さんは有馬側に降りられることになり、残り5人でアイスロードを下る。ここからは良く踏まれた登山道で、徒渉も数ヶ所あり、周囲の景色を見ながら、写真を撮り下山となる。表六甲ドライブウェイ下のトンネルをくぐり、新六甲大橋を上に見ながら今日の最終点である六甲ケーブル下駅バス停留所で解散となった。

【コースタイム】

神鉄六甲駅9:33～古寺山10:38～シュラインロード登山口12:10～アイスロード入口13:32～六甲ケーブル下駅14:54

【参加者】

松仲史朗、前田正彰、横山規江、久保和恵、深澤優子、野村康、山本義博 計7名

支部山行22-56 第20回山岳古道調査
「平石峠第24経塚・高貴寺第25経塚」

福山茂光

11月27日(日)晴

初冬の朝、近鉄新庄駅前に集合。岩橋山をめざす。遠くに葛城の峰々が悠然と構えている。屋敷山古墳を左に緩やかな坂道を西へ。右に二塚古墳を見つつ、谷川に沿った急坂の登りへ。特有の黒雲母花崗岩が風化した粒の荒い砂地が靴底を滑らせる。やがて布施城本丸跡の案内板に着き小休止。続く登りは笹や倒木が道をふさぐ。

長年の流水が土を削り谷底となった道を登るうち久保辻に到達。平坦なダイトレが続く。岩橋峠から急登の階段を登り、標高658mの岩橋山山頂に。お弁当は最高の歓び。写真撮影の後、平石へ向かう。役行者にちなんだ久米の岩橋から胎内くぐり、鉾立岩、鍋釜石、人面石と奇岩に接しながら下る。樹林のむこうに初冬の河南町の風景が広がっている。やがて冬支度になった棚田の広がる平石に到着し、高貴寺の門前に立つ。役行者、空海にまつわる由緒ある高野山真言宗の古刹である。金堂の五大明王に無事をお祈りする。庭奥の小祠に不動尊を祀る第25経塚があり、境内には紅白の山茶花が今盛りと咲いていた。

寺を出て平石峠へ道をたどる。峠の斜面に役行者像の祠と不動明王を刻んだ第24経塚が祀られていた。峠から竹内街道に向かう。大和と大坂をつなぐ最古の官道はよく整備されている。芭蕉の句碑に立ち寄り、磐城駅をめざす。日没になって到着。背後には葛城の峰々が夕焼けに染まっていた。

【コースタイム】

近鉄新庄駅9:34～登山口10:31～布施城本丸跡11:10～12:32岩橋山12:54～鉾立岩13:43～高貴寺15:19～平石峠16:05～磐城駅17:11



平石峠第25経塚にて 写真提供：野村 康

【参加者】

永井 和、薦田佳一、新本政子、久保和恵、岩崎しのぶ、中川委紀子、深澤優子、野村 康、福山茂光 計9名

支部山行22-59 第15回関西のアルプス踏査
「用瀬アルプス」

新本政子

12月10日(土)晴

師走とは思えない快晴無風の智頭駅に集合。往復タクシーを使う予定に駅には小さなタクシーが1台のみ。急遽逆コースに行程変更し、下山予定地の上板井原へとゆっくり組4名が先行した。タイムスリップしたような古民家を過ぎて林道を登り出す。峠の地蔵を経て一喘ぎした海上山最高点展望台は、遠く雪を冠った扇ノ山等周囲の眺望が楽しめた。ゆっくり昼食を始めた頃に後の4名も到着合流。海上山三角点はすぐそこで、小春日の陽を受けながら落ち葉を踏みつつ牛臥山へと快適な尾根歩きを楽しんだ。牛臥山広場を経て智頭の町へと下山。千代川に架かる錦橋を渡り帰阪する二人を駅に見送って、古民家を改造した「楽之」に投宿する。穏やかな登山日和の良い一日であった。

11日(日)曇のち雨

曇り空を仰ぎながら宿を後にし、用瀬駅へと移動する。三角山登山口で準備体操を始めた頃にポツリと雨が落ちた。女人堂から急登となり三角山山頂の神社に詣でる。おおなる山の手前で本降りとなり予報通りの天気となった。足元に細心の注意払いながら鬼ヶ峠に下り、登り直して洗足山展望台、日本海まで一望できるそうだが雨では仕方なく一等三角点の洗足山へとひたすら歩



鬼ヶ峠から洗足山への岩稜を登る 写真提供：重廣恒夫

く。分岐より鳥居野へと下山。鳥居野公民館の軒先をお借りして濡れた雨具を脱ぎ身支度を整えて、タクシーにて智頭駅に戻る。今日も一台の車がピストンで大わらわだったが、予定よりも早い特急に間に合って、達成感に

満足しながら帰宅の途についた。

【コースタイム】

10日 JR智頭駅9:42=タクシー=上板井原10:32~峠地蔵11:43~海上山最高峰11:56~12:22海上山三角点12:35~牛臥山13:09~登山口14:52~JR智頭駅15:16

11日 JR用瀬駅8:39~三角山登山口9:19~三角山10:25~おおなる山12:25~鬼が札13:03~洗足山三角点14:08~鳥居野公民館16:23=タクシー=JR智頭駅17:00

【参加者】

重廣恒夫、薦田佳一、永井和、野村康、中村三佳、新本政子、(10日のみ)豊田哲也、深沢優子 計8名

支部山行22-60

「道迷い講習会」

茂木完治

12月11日(日)曇

今回は人数が少なく、参加者も講師にどんどん質問し、講師の青山氏も指導が楽しそうだった。

いつものように駅前の駐車場でコンパスを使った三角歩行の訓練、波豆川の橋へ行くまでに歩幅と歩数の訓練、地図とコンパスで現在地を特定する訓練をやってから、平坦地の藪の中で歩数を50歩に増して三角歩行をやり藪中での難しさを体験した。281mピークへの登り道の途中で現在地を確認して、そこから来る時に通った一点に向けて藪中を磁石を頼りに目指す訓練は本当の藪漕ぎ体験ができてよかったと思う。2kmくらい歩いたつもりでも藪中では300mくらいしか歩けないことを知って驚いていた。

非常に有意義な訓練ができた一日であった。



磁石を頼りに藪を歩く訓練 写真：茂木完治

【コースタイム】

JR道場駅9:30~羽束川橋~三叉路14:00~風吹岩途中まで登る14:30~藪漕ぎ~三叉路15:30~JR道場駅16:30

【参加者】

青山千彰、上森文子、坂本明子、今宿瑛三郎、鷲本晴香、茂木完治 計6名

支部山行22-61 ゆるやか山行 歴史と文化を訪ねて「明神山273m」

田頭夏子

12月15日(木)晴

今シーズン初の厳しい寒さになる、という予報を聞き、しっかりと着込んで集合。当日は快晴で風が強い日でした。9時35分、リーダーの久保さんより、黒田記代さんの訃報をお聞きし、集合場所にて参加者全員で黙祷しました。黒田さんとは何度も山行にご一緒させて頂き、突然の事に心が痛むばかりでした。

一級河川大和川を渡って河川敷で準備体操をし、いざ明神山を目指して出発です。みかん畑横の急な登りを行くと遠くにあべのハルカスが見える。関屋地蔵をお参りし尾根に入る。木々に囲まれた鉄塔の下で昼食。その後なだらかな稜線が続き落葉の上を行くと、突然視界が広がり明神山に到着。大台ヶ原から大和三山などが見渡せてパノラマの展望に感動。下りは落葉で埋もれた階段を慎重に下り八幡神社へ。紅葉が美しく迎えてくれ、最後にJR三郷駅への帰路に着く。変化のある楽しい山行でした。

【コースタイム】

JR高井田駅9:36~大和川河川敷9:54~明神山登山口10:52~関屋地蔵尊11:15~鉄塔下昼食12:44~明神山13:45~八幡神社14:29~JR三郷駅14:51



明神山からの展望 写真提供：山崎 詮

【参加者】

久保和恵、山内幸子、内田嘉弘、黒田守彦、坂口和子、野村康、松村文子、茂木完治、森澤義信、山崎 詮、八田吉子、福山茂光、池尻英明、金川清弘、黒岩敦子、小

林三喜男、高木知子、田頭夏子、田中アキエ、中田栄、
播戸日出生、横山規江 計22名

支部山行22-62 第21回山岳古道調査
「葛城修験の道」
二上山第26経塚・逢坂第27経塚

永井 和

12月17日(土)雨

当麻寺駅を出てすぐに細雨が降り出した。舗装された長い参道を歩いて当麻寺山門にいたるが、竹之坊の行者堂のみを拝して、早々に高雄寺にむかう。祐泉寺までは舗装路が続くが、鳥谷塚古墳を過ぎると道幅は狭くなり、祐泉寺から先は登山道を歩くことになる。

祐泉寺前で近畿自然歩道の案内に導かれて進んだが、これが間違いだった。計画では岩屋峠にいたる谷道を取り、岩屋を訪問の後雌岳と雄岳に登る予定だったが、両峰の鞍部の馬の背に行く道を選んでしまったのである。しかも馬の背に着くまで間違いに気づかなかった。馬の背から雄岳山頂にある第26経塚を往復したあと、雨をしのぐため万葉の森の東屋で昼食をとった。雌岳を越えて岩屋峠に下り、そこからダイトレに入って岩屋の石窟を拝した。鎌倉時代には第26経塚はここにあったという。

岩屋からダイトレを歩いて府道703号線に出て、車道脇を穴虫峠にむかう。峠を奈良側に越えてすぐのところ馬頭観音像が祀られていた。かつて「大坂越」の古道が通っていたことを示す遺跡である。

穴虫峠から第27経塚近くの近鉄二上駅に向かったが、第27経塚は現在香芝市逢坂の私人邸内に存在するため簡単には訪問できない。代わりに逢坂にある大坂山口神社に参拝して経塚巡りを締めくくった。



二上山第26経塚にて 写真：永井 和

【コースタイム】

当麻寺駅9:12～当麻寺9:40～祐泉寺10:30～二上山雄岳

11:40～馬の背12:13～岩屋13:00～穴虫峠15:00～大坂山口
神社15:50～16:02二上駅

【参加者】

永井 和、薦田佳一、久保和恵、新本政子、山内幸子、
山西和美、岩崎しのぶ、中川委紀子、深澤優子、野村 康、
上森文子 計11名

支部山行22-63 クライミング初級
「mont・bell 六甲店 クライミングジム」

12月22日(木)

【参加者】

江村俊也、深澤優子、吉村恵利 計3名

支部山行22-64 第11回ヒマラヤ登山塾
「世界初の挑戦 マカルー東稜」

吉井 修

12月25日(日)

マカルーはクーンブ山群の東端に位置する標高8463m、世界第5位の高峰である。1955年フランス隊が北西面から初登頂。70年には、日本山岳会東海支部隊が南東稜から第2登した。

重廣さんは、1980年チョモランマ北壁を初登攀された時、周辺の花々が漆黒の闇に覆われる一瞬、空気を吹き込まれた炭火のように赤々と燃えるマカルーの巨大な輝きが、強烈な印象となって残り、1988年のチョモランマ交差縦走の為の偵察飛行の際に、眼下のマカルー東面に目を奪われ、13kmにも及ぶ東稜に焦点を定めるに至ったという。

阪神淡路大震災後の95年2月15日出発から豪雪による苦難の連続、3920mをBCとせざるを得なかった。難所を突破した7200m付近から上のゴジラの背と名づけた岩稜は時間切れとなり、北面に迂回して5月21日・22日の両日で8名の隊員が頂上に立った。

長い苦闘を乗り越えての登頂ではあったが、重廣さんはBCからの報告に、登頂は果たしたけれども、「完登」できなかった「心残りの山」ともなると、そして隊員たちには「マカルー登頂は一瞬の感動」であって「明日からの我々の新たな目標に対しては、ほんのわずかな体験でしかない」と自覚し、さらなる精進をして欲しいと記されている。

報告書の巻頭で、村木会長は「集団の協力による成果

を求めることより、個人の達成感を満足させることの方が重要視されていく」中で、「登攀技術はもちろん、高所の滞在が長く、荷上の為に相当数の人数を要するという困難のある遠征であった」と書いておられたが、以後、これほどの登山隊は組織されていない。

私は昨年、第2回グレート・ヒマラヤ・トラバース隊に参加し、ルンバサンバ峠を越え、ネパール側からマカルー東稜を見た。頂上へ突き上げていく白く美しい長大な稜線、それでも重廣さんによると全体の半分も見えて

いないとのことであった。いつの日にかこの長大な尾根は完登されるのだろうか？

【参加者】

新本政子、池尻英明、魚津清和、岡谷雄一郎、岡田輝子、賀集信、加藤芳樹、薦田佳一、関戸京子、竹中雅幸、辻和雄、豊田哲也、中久保忠伸、中村三佳、野村珠生、野村康、橋本圭之輔、深澤優子、茂木完治(以上関西支部)、吉井修(首都圏)他9名、計29名

令和4(2022)年10～12月「本山寺山森林づくりの会」活動報告 武田壽夫

◆日時：2022(令和4)年10月16日(日)9:30～15:30
 気象：晴
 活動内容：「45林班ろ」での地域環境保全（倒木処理、過密広葉樹除伐、ほか）
 参加者：石原順子、猪川 誠、斧田一陽、倉谷邦雄、黒山泰弘、武田壽夫、竹歳三喜子、春名浩一、湊 亮、宮本 廣、兪 靖函 会員11名

気象：晴
 活動内容：「45林班に-03」での地域環境保全（倒木処理、過密広葉樹除伐、ほか）
 参加者：猪川 誠、石田美和、斧田一陽、菊山美紀子、倉谷邦雄、黒山泰弘、武田壽夫(AM)、竹歳三喜子、田村綾子、寺田昭弘、当山清之、中村俊夫、春名浩一、宮本 廣
 (体験)：川谷充郎、下土居秀樹 会員14+体験2=計16名

◆日時：2022(令和4)年10月27日(木)9:30～15:30
 気象：晴
 活動内容：「45林班に-03」での地域環境保全（倒木処理、過密広葉樹除伐、ほか）
 参加者：猪川 誠、斧田一陽、倉谷邦雄、河野直子、黒山泰弘、武田壽夫、当山清之、中村賢三、春名浩一、宮本 廣 会員10名

◆日時：2022(令和4)年12月11日(日)9:30～15:30
 気象：晴
 活動内容：「45林班に-03」での地域環境保全(倒木処理、過密広葉樹除伐、ほか)
 参加者：猪川 誠、石田美和、斧田一陽、菊山美紀子、工藤貴士、倉谷邦雄、黒山泰弘、武田壽夫、寺田昭弘、中川義行、中村賢三、宮本 廣 会員12名

◆日時：2022(令和4)年11月3日(木)9:30～15:30
 気象：晴
 活動内容：「45林班に-03」での地域環境保全（倒木処理、過密広葉樹除伐、ほか）
 参加者：猪川 誠、石原順子、石田美和、内海宏一、大本孝子、斧田一陽、小櫃徹夫、工藤貴士、倉谷邦雄、河野直子、黒山泰弘、武田壽夫、寺田昭弘、当山清之、中川義行(AM)、中村賢三、中村俊夫、春名浩一、宮本 廣
 (体験)：菊池美紀子 会員19+体験1=計20名

◆日時：2022(令和4)年12月18日(日)9:30～15:30
 気象：晴
 活動内容：「45林班に-01」での地域環境保全(倒木処理、過密広葉樹除伐)、安全研修(伐採作業の安全確保)
 参加者：猪川 誠、斧田一陽、大本孝子、黒山泰弘、武田壽夫、中川義行、中村賢三、春名浩一、宮本廣、山本國夫
 (体験)栗原昌暉 会員10+体験1=11名

◆日時：2022(令和4)年12月1日(木)9:30～15:30

令和4(2022)年10～12月東おたふく山ススキ草原復元活動

田島聖子

(東お多福山草原 保全・再生研究会活動)

◆日時：2022(令和4)年11月19日(土)

気象：晴

活動内容：晩秋の全面刈り（コンラート4の全面刈り-ハイキング`道両側を刈払機7台で刈取、東側は手刈り(午前中に終了)。午後は刈取ったネザサの集積

参加者：斧田一陽、桐村登美枝、田島聖子 3名(ほか他団体等から43名)

◆日時：2022(令和4)年12月10日(土)

気象：晴

活動内容：冬の全面刈り（コンラート2。3.6の全面刈り-刈払機7台と手刈りで午前中に終了)。午後は刈取ったネザサを集積(気持よい草原が広がる)

参加者：田島聖子(ほか他団体等から41名)

「山行ひろば」

山行ひろば案内

5月31日(水)支部ルーム19:30～21:30

小阪健一郎会員に自身の提唱する辺境クライミングを語っていただきます。Zoom参加される方は茂木完治(yib03510@nifty.com)までご連絡ください。

山行ひろば報告

11月30日(水)19:30～21:00

出席者：15名(ルーム：茂木完治、寺田昭弘、会員外2名、Zoom：井川浩彰、辻和雄、鷺本晴香、江村俊也、野村康、立野里織、関戸京子、吉村恵利、小阪健一郎、中谷康司、松尾みどり)

茂木が著者と語る会で講演した「世界を沢登りで巡る」のうち、台湾と韓国に絞って紹介しました。

(茂木完治)

2023年4月～6月 山行委員会行事案内

※後尾に申込み先連絡先掲載【いずれも締切厳守】

23-1 雪稜シリーズ

「奥越前・銀杏峰」

日時：4月1日(土)～2日(日)

コース：詳細は申込者に連絡します。

申込み：3月20日(月)迄(担当：江村俊也)

23-2 沢登り例会

「大峰川迫川・モジキ谷」

日時：4月2日(日)

コース：詳細は申込者に連絡します。

申込み：3月24日(金)迄(担当：中久保忠伸)

23-3 第25回山岳古道調査

「吉野道・芋越」

日 時：4月15日(土) 橿原神宮前駅東口8:30集合

コース：橿原神宮前駅～岡寺前バス停～小峠入口～芋ヶ峠～千股～大和上市駅

申込み：4月5日(水)迄(担当：永井 和)

23-4 月例会(4月)

「六甲・イヤガ谷」

日 時：4月23日(日) 神鉄鶴越駅改札前9:00集合

コース：鶴越駅～イヤガ谷～帝釈堰堤～イヤガ谷東尾根～鈴蘭台駅

申込み：4月14日(金)迄(担当：野村 康)

23-5 クライミング初級

「六甲・蓬莱峡」

日 時：4月27日(木) 阪急宝塚駅8:30集合

申込み：4月20日(木)迄(担当：江村俊也)

23-6 雪稜シリーズ

「北ア・白馬岳」

日 時：5月4日(木)～7日(日)

コース：詳細は申込者に個別連絡します。

申込み：4月20日(木)迄(担当：江村俊也)

23-7 青春80ハマル山歩き 関西の巨樹巡り①

「関西最大! 十五社の樟と万葉集の妹背山」

日 時：5月11日(木) JR和歌山線笠田駅9:48集合

コース：笠田～十五社の樟～妹背山～青洲の里～名手
申込み：5月1日(月)迄(担当：茂木完治、申込は岡田輝子)

23-8 第26回山岳古道調査

「吉野道・冬野越」

日 時：5月20日(土) 橿原神宮前駅東口8:30集合

コース：橿原神宮前駅～石舞台バス～西口茶屋跡～冬野～竜在峠～志賀～妹背大橋～吉野神宮駅

申込み：5月10日(水)迄(担当：永井 和)

23-9 海外登山

「ボルネオ・キナバル山(4095m)」

日 時：5月24日(水)～28日(日)

コース：24日：関空午前発ーコタキナバル(ホテル泊)・25日：ホテルー登山口ー山小屋(標高3300m泊)・26日：山小屋ーキナバル山ー登山口ーコタキナバル(ホテル泊)・27日：コタキナバル午後発(機中泊)・28日：関空早朝着

費用：約30万円(諸費用を除く)*4月20日以降の取消しはキャンセル料が発生します。

申込み：4月20日(木)迄(担当：水谷 透)

※航空機、山小屋の予約が取れた方のみ参加可となります。

23-10 クライミング初級

「六甲・蓬莱峡」

日 時：5月25日(木) 阪急宝塚駅8:30集合

申込み：5月18日(木)迄(担当：江村俊也)

23-11 六甲山を歩く

「春の高山植物を楽しむ」

日 時：5月27日(土) 六甲ケーブル下駅下9:30集合

コース：ケーブル下～ケーブル山上駅～六甲高山植物園～極楽茶屋跡～紅葉谷～有馬温泉駅

申込み：5月22日(月)迄(担当：松仲史郎)

23-12 月例会(5月)

「和東・鷲峰山の清水谷川(沢初級)」

日 時：5月28日(日) 和東・原山バス停9:31集合(JR加茂駅9:11発バス)

コース：原山～清水谷川右俣～金胎寺～鷲峰山～原山
申込み：5月21日(日)迄(担当：寺田昭弘)

23-13 関西のアルプス踏査

「加美アルプス」

日 時：6月11日(日)～12日(月) テント泊

コース：道の駅多可～加美アルプス縦走～三国岳～道の駅

詳細は申込者に連絡します。

申込み：6月4日(日)迄(担当：重廣恒夫)

23-14 第27回山岳古道調査

「吉野道・宮奥越」

日 時：6月17日(土) 近鉄榛原駅9:08集合

コース：駅～大宇陀バス停～宮奥峠(三津峠)～竜門岳～竜門岳西谷口～西谷～大和上市駅

申込み：6月7日(水)迄(担当：永井 和)

23-15 クライミング初級

「六甲・蓬莱峡」

日 時：6月22日(木) 阪急宝塚駅8:30集合

申込み：6月14日(水)迄(担当：江村俊也)

23-16 ヒマラヤ登山塾

「第3回グレート・ヒマラヤ・トラバース報告」

日 時：6月25日(日) 15:00～17:00

場 所：大阪梅田第2ビルB4(ロジ大阪店地下)

申込み：6月18日(日)迄(担当：重廣恒夫)

23-17 例会(6月) 50歳未満限定

「ベテラン呼んでレスキュー技術勉強会」

日 時：6月25日(日) 阪急芦屋川駅9時集合

コース：ロックガーデン・ゲート
 ロック周辺広場
 申込み：6月18日(日)迄(担当：今宿瑛三郎)
 (右のQRコード)



申込み先一覧

今宿瑛三郎	oira.imajuku@gmail.com
江村俊也	tobi.osaka@me.com
岡田輝子	smiler8823teruko@true.ocn.ne.jp
重廣恒夫	tsuneo.shigehiro@outlook.com
寺田昭弘	czg01500@ybb.ne.jp
豊田哲也	zat04126@nifty.com
永井 和	nagai.kazu@gmail.com
中久保忠伸	qq8v9xu9tnnt@jcom.zaq.ne.jp
野村 康	n0mura87.32@nifty.com
松仲史朗	mgjqk966@ybb.ne.jp
水谷 透	jacmztn@yahoo.co.jp
関西支部	kansai.jac@canvas.ocn.ne.jp

ステップアップ登山教室 一般募集

(会員・準会員・会友も参加可能)

申込先：豊田哲也、中久保忠伸(2人で担当)
 受講料：4か月で8,000円。座学受講時に徴収。
 ※詳細については関西支部ホームページをご覧ください。

- ・登山教室座学 4月8日(土)
- ・初級(登山に必要な知識・技術・体力養成)
 - 5月7日(日) 地蔵山、叶山
 - 6月4日(日) 岩湧山、扇山
 - 7月9日(日) 青根ヶ峰
- ・中級(初歩の沢歩き、岩場の通過と登攀具の使用)
 - 5月13日(土) 六甲(高座川)地獄谷
 - 6月24日(土) 金剛山石ブテ谷
 - 7月15日(土) ポンポン山不動谷左俣
- ・上級(初歩の岩登り)
 - 5月11日(木) 蓬莱峽
 - 6月8日(木) 六甲・ゲートロック
 - 7月13日(木) 金毘羅・Y懸尾根

※上記とは別に6月より入門コースを開設

- ・入門コース(これから山登りを始めたい人向けの登山教室)
 - 受講料：4か月で8,000円
 - 担当：重廣恒夫
 - 6月10日(土) 座学(山登りを楽しむコツ、山登りに必要な知識と技術、山登りに必要な装備、山の歩き方)
 - 7月1日(土) 城山
 - 8月5日(土) 摩耶山
 - 9月2日(土) 六甲山

2023年4月～6月 自然保護行事案内

1. 「日本山岳会関西支部 本山寺山の森」森づくり活動 (本山寺山森林づくりの会活動)

活動日：4/6(木)、4/16(日)、4/29(土・臨時)、5/4(木)、5/11(木・臨時)、5/21(日)、6/1(木)、6/11(日・臨時)、6/18(日)

集 合：JR京都線高槻駅北アルプラザ前 8時40分
 作業体験、森林観察、入会歓迎です

2. 東お多福山ススキ草原復元活動(東お多福山草原保全・再生研究会活動)

活動日：4/5(水)、5/17(水) 仮払い作業
 集合場所・時間：JR神戸線芦屋駅南口、8時30分

3. 自然観察会

① ポンポン山

期日：4月6日(木)カタクリ、4月29日(土)クリンソウ

集合場所、行程等詳しくは担当(豊田)まで
 問合せ・申込み先 豊田哲也(ポンポン山)
 ☎090-6433-3108

② 東お多福山

期日：4/15(土)、5/15(月)、6/17(土)
 集合場所・時間：東お多福山登山口バス停 9時

問い合わせ・申込み先

斧田一陽(全般)
 ☎/FAX 072-699-6556、090-4037-4542
 武田壽夫(本山寺山の森) ☎090-2042-9101
 田島聖子(東おたふく山) ☎078-411-3837
 締切：開催日の2週間前まで

◎ スケッチ同好会 ◎

【報告】

第51回 信貴山・朝護孫子寺

日時：2022年11月21日(月)

参加者：岩崎しのぶ、浦上芳啓、岡田輝子、野村哲夫、
嶋岡 章、田頭夏子、宮野 章、森澤義信、
横山規江、高木知子、松村文子、福山茂光、
播戸日出生 計13名



信貴山・朝護孫子寺参道、播戸日出生 画



通天閣 田頭夏子 画

【案内】

第54回 合宿

日時：2023年5月8日(月)～5月10日(水)

行先：八ヶ岳山麓(清里・野辺山高原)

交通：JR線利用・他

費用：約35,000円(JRジパング利用時・宿舎YH2泊)

申込み：3月31日(金)迄 担当 久保和恵

E-mail: unclertorys05-kazu@nifty.com

携帯電話：090-2598-922

第6回 スケッチ同好会グループ展

日時：2023年6月6日(火)～6月9日(金)

会場：大阪市立総合生涯学習センター・ギャラリー A
(大阪駅前第2ビル5階)

第52回 天王寺公園・茶臼山

日時：2023年1月16日(月)

参加者：浦上芳啓、岡田輝子、久保和恵、薦田佳一、
嶋岡 章、高木知子、田頭夏子、野村哲夫、
播戸日出生、松上美代子、宮野 章、横山
規江、岩崎しのぶ 計13名

支部会費の納入について

関西支部会費は「関西支部報」送付時に同封されている払込取扱票にて納入ください。

払込取扱票を利用せずに納入される場合は、氏名の前に会員番号を付け加えてくださるようお願いいたします。

関西支部では会員番号にて管理しておりますので、会員番号の記入がない場合、入金処理の遅れや未納扱いとなり、再度請求させていただくことがあります。

個人山行

関西安全委員会に提出された個人山行登山計画書は、「関西支部報」に掲載しておりましたが、関西支部ホームページ (<https://kansaijac.jimdofree.com>) の会員ページに移行しました。

－ ご注意！ －

【山のトイレ】

阪神間の山麓にあるお寺で、参詣者のためのトイレをハイカーが汚し、トイレを詰まらせ、汚物(尿取りパッドなど)を捨て、トイレトーパーパーを持ち去るなどが続いたため、やむを得ずトイレを閉鎖するようになっています。山のトイレはみんなのものです。お寺のみならず山小屋や公衆トイレでもていねいに使い、汚さぬように心がけましょう。

【蓬莱峡エリアへのアプローチ】

土地所有者の方に迷惑を掛けないよう、下記のことにご注意してください。

- ① 入口門扉は、毎回必ず閉める。
- ② 入り口前の不法駐車をしない。
- ③ グレンデへは直進せず河原を経由する。(ブルートレイン方面の通行禁止)

(支部長 茂木完治)

